

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 田野浦 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 9.3 | 66 | 9.4 | 59 |
| 全国 | 9.4 | 67 | 10.0 | 63 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | |
|----|-------------|--|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を上回っている。 ・領域別では、「話すこと聞くこと」、「書くこと」のすべての問題で全国平均を上回っている。 ・その他の領域でも、全体として全国平均を上回っており、学力の定着が見られた。一方、「情報の扱い方に関する事項」では、語句の意味や関係の理解に課題が見られた。 |
| | よくできた問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要なことを質問しながら聞き、話題の中心をとらえる問題。 ・話し手と自分の考えを比較しながら自分の考えをまとめる問題。 |
| | 努力が必要な問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し、使う問題。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題。 |

| | | |
|----|-------------|---|
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を上回っている。 ・領域別では、「数と計算」の正答率が高い一方、「変化と関係」、「データの活用」では、記述や論理的思考を伴う問題の正答率が低く、思考力・表現力に課題がある。 |
| | よくできた問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・比例の関係を利用して知りたい数量を求め、その考え方を説明する問題。 |
| | 努力が必要な問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・高さが等しい三角形の底辺と面積の関係、規則性や変化の特徴の読み取り、表の読み取りなどの問題。 |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

| 質問紙調査の結果分析 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのは楽しいと思うか」「友達関係に満足しているか」との問いに対して、90%の児童が肯定的に回答している。 ・「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した割合が全国平均を上回っている。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。 ・学校の授業時間以外の学習時間が、全国平均と比べてかなり少なかった。宿題だけではなく、課題や目標を設定して自主学習にも積極的に取り組ませるなど、家庭学習の充実を図る必要がある。 |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・毎月末に「授業改善シート」を活用し、児童が話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできる授業展開の工夫に努める。
- ・ユウカリタイムや田野浦タイムで、国語、算数の基礎問題に取り組み、知識・技能、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・毎学期、「生活アンケート」を実施し、個別面談（全員実施）、学級指導を行う。
- ・結果を保護者へも知らせ、保護者と連携して基本的な生活習慣の定着と改善を図る。